



学校だより

1月号

校長 工藤 聡



判断と選択

みなさん、おはようございます。そして新年あけましておめでとうございます。この年末年始は、昨年のような災害や事故もなく、静かで平和な時間が過ぎました。けれど、能登半島地震が発生した元日の16:10には、黙とうを捧げた人も多かったのではないのでしょうか。皆さんはどのようなお正月を迎えましたか？

さて、三学期の始業式に当たり、今年度から四中が「衣替えを無くした」ことについて私の考えをお話します。そもそも、衣替えとは季節に応じて衣服を変えることを指します。一般的には夏服に着替えるのが6月、そして寒くなる前の10月に学校でも行っていました。けれども昨今の「地球温暖化」の影響もあり、5月には半そでの気候、11月になっても暑い日が続くなど、今までの日本の常識では通用しない天候になってきていることも、衣替えを無くしたことの要因です。しかし、四中のこの校則の変更のねらいはそ



れだけが理由ではありません。生徒の皆さんが生活しやすいようにという先生たちの思いから生まれたものですが、その結果、こういった取り組みになっているか。それは、「TPOに合わせた服装を自分で考える」ということです。TPOとは、Time、Place、Occasionの頭文字をとっています。時・場所・場面に応じた服装や態度、マナーやルールをわきまえるという意味が込められています。

元々校則とは、集団生活を成り立たせるためにあるもの。その中で服装は「他人に迷惑をかけない」ことを基本としているはずです。迷惑とは、学校での学びを邪魔しないこと。しかし、四中は何でも着ていいという規則ではありません。着ていいアイテムは決ま

っています。けれどもその「組み合わせ」は自分で考えるのです。季節やその場に応じた「判断と選択」が求められます。例えば、今皆さんが上着を着用し、ネクタイ・リボン、白い靴下でこの式に臨んでくれています。先日の二学期終業式でもそうでしたね。こういった切り替えが自分たちでできること、それを求められているのです。校内と校外、普段と式典、暑い時寒い時。その場にふさわしい、他人に迷惑をかけない、機能的な服装を自分で選び、着用できる力を身に付けてください。



そのことは、皆さんが将来社会に出た時に、必ず求められる力の一つです。衣替えを無くしたこと。私は素晴らしい取り組みだと感じています。

ぜひ一人ひとりがよく考えて、この取組を充実したものに、継続して行ってください。そしてやがて入学してくる新入生に伝えて行ってください。期待して見えています。

さて、一年のまとめの三学期が始まります。各学年、取り組むべきこと、心がけること、様々あると思います。来週には一年生は移動教室で戸狩に行きますね。体調は万全ですか??一年生の頑張りや成長を楽しみにしています。

あっという間に過ぎていくこの三学期、一日一日を大切に、皆さん一人ひとりにとって充実した毎日になることを願っています。

(三学期始業式 校長講話より)